

一般質問



下久保 議員

質問

一、(1)各地区からの要望の数は現状でどのくらいあるか。その中で年間どの程度が解決されているのか。要望について数年来解決できていない事案が多数ある。

(2)九電松浦発電所からの協力金を原資に基金等の制度を制定し対応してどうか。「自助・互助・公助」の精神を再度見直し、地域住民と協力しながら早く解決できるような対応をするべきだ。

(3)毎年開催される「まちづくり市民懇話会」では市長と直接お話しできる機会として市民の皆さんは発言されている。市長としてしっかりと対応をするべきだ。

二、(1)防災について市民への周知や意識の高揚を図る必要があると考えその方法はどうか。各地の先進的な取り組みを倣い、市のホームページを使い防災メール便やフェイスブック等で情報の緊急発信をするシステムをつくれぬのか。

(2)防災運動会を開催し市民の災害に備える意識や知識を高め、技術を身につけるといった方法を松浦市でも取り組むべきだ。

一、各地区からの要望項目への取組みについて

二、市民の防災意識の高揚に向けた取組について

答弁

一、(1)22年度、23年度各々約300件の要望項目が出ています。22年度の要望の大体3割が解決でき、残りが次年度への繰り越しとなっています。

(2)基金を新たにづくつても、事業を実施するに際しては一般会計に繰り出す必要があります。現在ある地域振興基金で対応が可能と思われれます。

(3)市民懇話会を毎年開催し、市民の皆さん方との意見交換や対話をさせて頂いています。ご指摘は十分心がけて対応してまいります。

二、(1)防災情報に関しては災害によって出し方も違うかと思いますが、先の原子力災害の防災会議の際には、防災意識をどう喚起するかという意見もあり、防災知識を持つて頂くための分かりやすいパンフレット等を作成しようと考えています。また、防災に関する市のホームページの在り方についてもご提案のような検討を行います。

(2)各地域で地域運動会が催されていますので、防災意識を養成できるような種目等を取り入れて頂けないか検討したいと思えます。

一般質問



板谷 議員

質問

一、(1)玄海原子力に係る防災避難対策が10キロメートルから30キロメートルに拡大され、また避難場所などが決定しているが、安全協定についてはどのようなになっているのか伺いたい。

(2)福島原発事故による海洋汚染は、広範囲で汚染度が検出され風評被害も出ている。玄海原発に関する安全協定の締結と国に対する電源三法制度の見直しについては、県とともに行動を強化すべきと思うが、本日までの取り組みの状況と今後の取り組みについてお尋ねする。

二、元寇船発見による今回の海底遺跡の指定は日本初となる。これまでに鷹島全島においては、名称遺跡40か所と32年間の水中考古学調査により発見された遺物約4千点が鷹島歴史民俗資料館にあるが、今後、これらの活用の取り組みについての考え方について伺いたい。

一、玄海原発の今後の課題について

二、元寇沈没船初の海底遺跡の国史跡指定と今後の取組について

答弁

一、(1)現在、本県と九州電力本社の間で精力的に協議がなされております。本市としては、県と九州電力と松浦市の三者の協定を強く求めており、基本的には佐賀県と玄海町と九州電力の間で締結されている協定書を基本とする立地県並みの協定を求めています。昨年12月に鳥取県と境港市と中国電力の間で締結された協定書も参考にしたいと思っております。

(2)県において九州電力との本格的な協議、交渉が12月、1月に行われておりますが、内容についてはまだ詰めなければならぬ状況です。一定の協議の方向性が固まればご説明いたします。電源三法についてもこれまで12回ほど要望活動を県や国に行っているところです。今後も国に強く求めてまいります。

二、鷹島神崎遺跡は、水中遺跡として国内初の国指定遺跡となる予定です。蒙古襲来に関わる古戦場として歴史的な場所であり、当時の軍事や外交などを理解するうえでも極めて重要な遺跡です。この文化財を広く公開できるように尽力するとともに、展望所の設置等も対応していきたい。